# プログラミング言語論 #14 Practices

2018-07-23





## 部分適用

Haskell 自動的.全ての関数は高階関数

C言語 できない

JavaScript できない. ただし,変換関数を使うとできる.

# JavaScript によるグラフ描画

### 処理の流れ

- 1 html と JavaScript のロード終了時にデータ取得関数実行
- ② 可視化対象データ1をロード:終了時にイベント発生(2E)
- 3 可視化対象データ 2 をロード:終了時にイベント発生 (3E)

```
1 google.setOnLoadCallback(runQuery); // (1)
2 var q1 = new google.visualization.Query(url1); // (2)
3 var q2 = new google.visualization.Query(url2); // (3)
4 q1.send(handleQueryResponse1); // (2E)のためのハンドラ登録
5 q2.send(handleQueryResponse2); // (3E)のためのハンドラ登録
```

send の引数は1引数関数でなければならない

## ロード終了に対応するハンドラ

handleQueryResponse2 は, 3 行目が"gchart2", 4 行目が"graph2". ほとんど同じ内容を送信するのは無駄:パケットを減らしたい

```
汎用 3 引数ハンドラ関数

function handleQueryResponse(e, t, response) {
  var data = response.getDataTable();
  var area = document.getElementById(e);
  var opts = {"title": t};
  var chart = new google.visualization.LineChart(area);
  chart.draw(data, opts);
}
g1.send(handleQueryResponse); // ???
```

# JavaScript における部分適用

Haskell では引数の数が足りなければ自動的に部分適用になるが, JavaScript では部分適用実行関数 bind を用いる.

#### JavaScript での部分適用実行関数 bind

```
1 g = f.bind(null, a1, a2, ..., ak) // 第1引数のnullはおまじない
```

arity N の関数 f に bind を実行させると関数 f の第 1 ,第 2 ,  $\cdots$  第 k 仮引数が a1 ,a2 ,  $\cdots$  , ak に部分適用された arity (N-k) の 関数を返す

OOPL としての正確な説明では bind は関数ではなく関数クラスが持つメソッドというべき

# JavaScript における部分適用

Haskell では引数の数が足りなければ自動的に部分適用になるが, JavaScript では部分適用実行関数 bind を用いる.

```
JavaScript での部分適用実行関数 bind

8 = f.bind(null, a1, a2, ..., ak) // 第1引数のnullはおまじない
```

arity N の関数fに bind を実行させると関数 f の第 1 ,第 2 ,  $\cdots$  第 k 仮引数が a1 ,a2 ,  $\cdots$  , ak に部分適用された arity (N-k) の 関数を返す

OOPL としての正確な説明では bind は関数ではなく関数クラスが持つメソッドというべき

```
ハンドラの定義は一つだけ:パケット最小

1 q1.send(handleQueryResponse.bind(null, "gchart1", "graph1"));
2 q2.send(handleQueryResponse.bind(null, "gchart2", "graph2"));
3 q3.send(...
```

## 追補

- 別案 1:グローバル変数でタイトルを指定する→× どちらの データが先に到着するか不明
- 別案2:高階関数を利用
  - ▶ 2 つの文字列を受け取ると、対象領域、タイトルを固定した 関数を生成して返す高階関数

javascript で関数を返す構文(あるいは無名関数)を説明していないので詳細は省略

- ただし,実はこれは bind を自分で定義することに等しい
- 別案3: 汎用ハンドラを

```
function handleQueryResponse( e, t, response) {
```

ではなく

```
function handleQueryResponse(response, e, t) {
```

## 追補の追補

### なので Haskell にはこういう関数が用意されている

### ライブラリ関数 flip

```
1 :type flip
```

2 flip :: (a -> b -> c) -> b -> a -> c